

2018 年度 新卒採用に関するアンケート調査結果

2018 年 11 月 22 日

一般社団法人 日本経済団体連合会

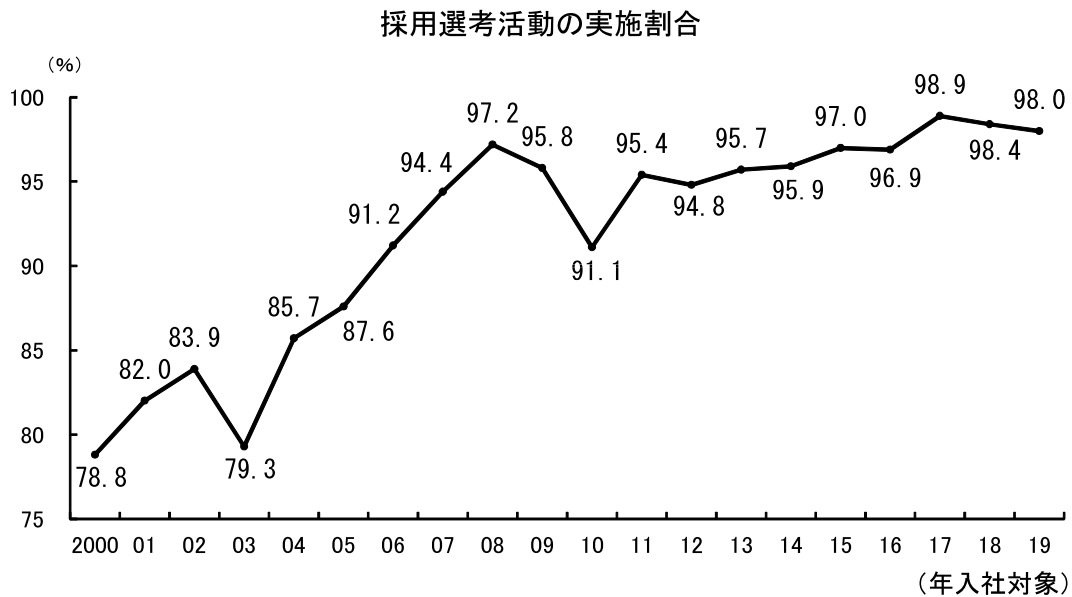
【調査実施要領】

- (1) 調査目的：企業の大卒等新卒者の採用選考活動を把握することを目的に、1997 年度より実施
- (2) 調査対象：経団連企業会員 1,376 社
- (3) 実施時期：2018 年 7 月 20 日～9 月 7 日
- (4) 回答社数：597 社（回答率 43.4%）
 - * 製造業 42.4%、非製造業 55.9%、不明 1.7%
 - * 従業員数 1,000 人以上 71.4%、500 人以上 1,000 人未満 12.1%
500 人未満 15.7%、不明 0.8%

1. 2019 年 4 月入社対象の採用選考活動全般について

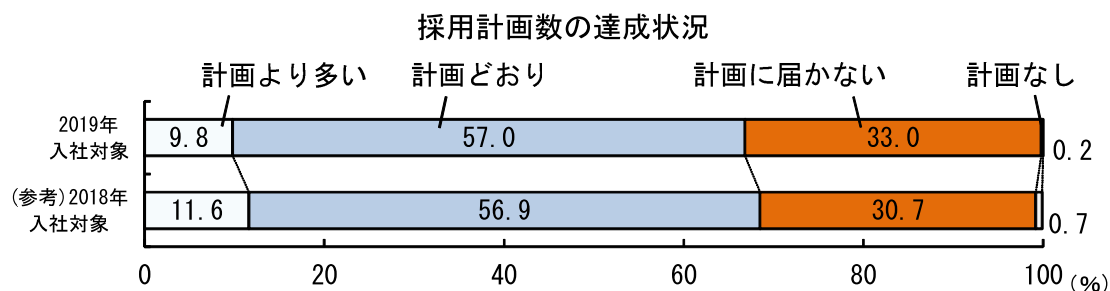
(1) 採用選考活動の実施割合

2019 年 4 月入社対象の採用選考活動を実施した企業の割合は 98.0%と、前年に比べ 0.4 ポイント減少したものの、高水準で推移している。



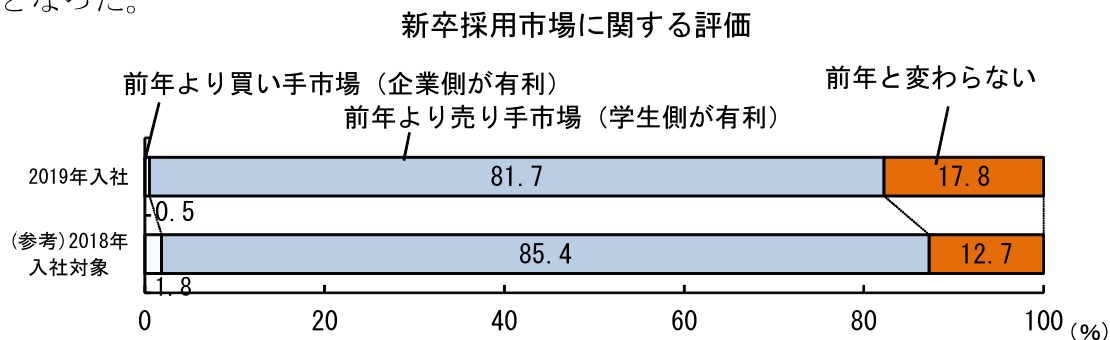
(2) 採用計画の達成状況

「計画に届かない」(33.0%)が前年に比べて2.3ポイント増加しており、採用難の影響が一定程度見られる。



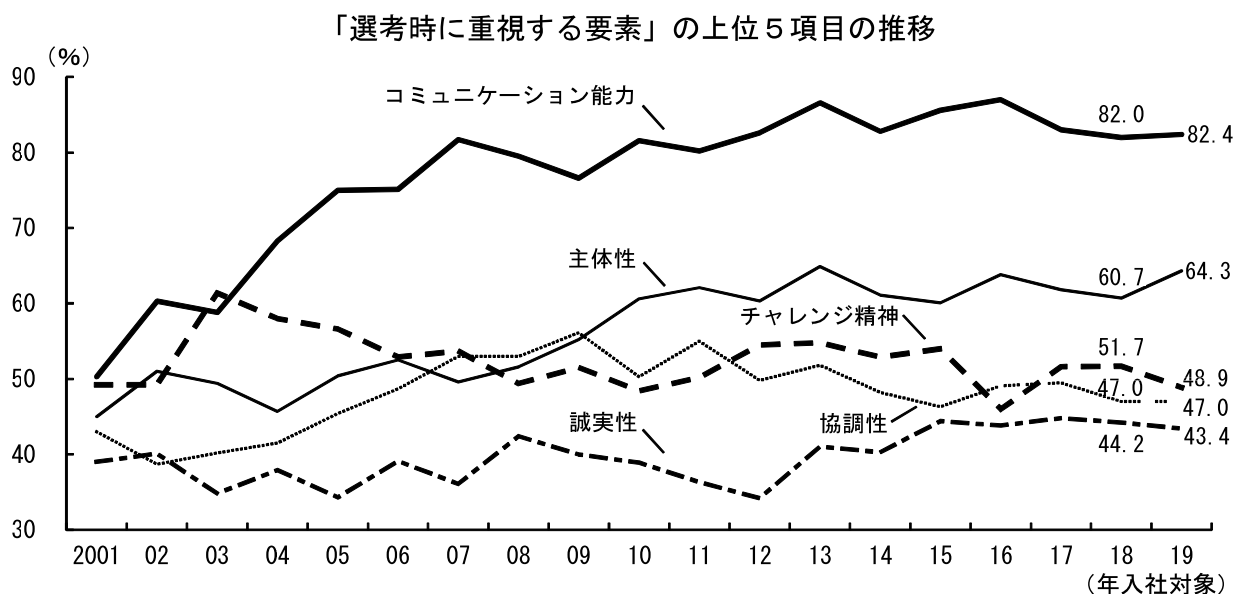
(3) 新卒採用市場に関する評価

「前年と変わらない」(17.8%)が前年に比べて5.1ポイント増加しているものの、「前年より売り手市場(学生側が有利)」(81.7%)が3年連続で8割以上となった。



(4) 選考にあたって特に重視した点

「コミュニケーション能力」が第1位(16年連続)、「主体性」が第2位(10年連続)となった。「チャレンジ精神」は、前年に比べて2.8ポイント低下したものの、3年連続で第3位となった。



注：20項目から5つを選択。20項目の詳細は6頁を参照。

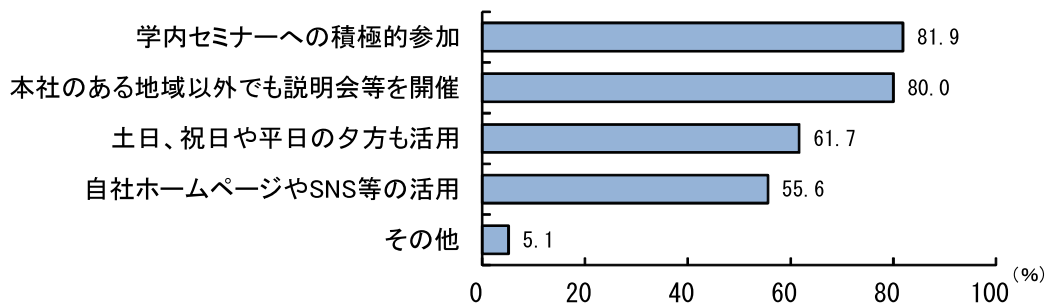
2. 2019年4月入社対象の広報・選考活動について

(1) 学事日程への配慮

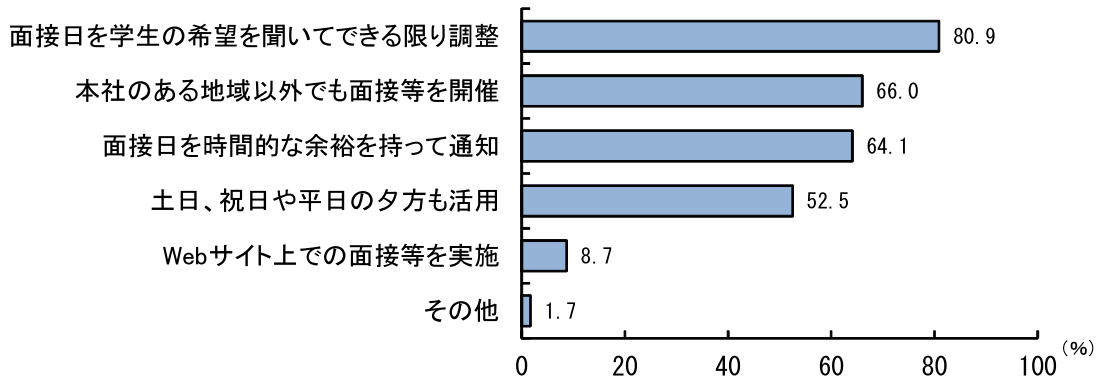
広報活動の際に学事日程を尊重して実施したものでは、「自社ホームページやSNS等の活用」(55.6%)が、前年19.5ポイント増加したのに続いて、本年さらに7.0ポイント増えた。

選考活動に際しては、「面接日を学生の希望を聞いてできる限り調整」(80.9%)が最も多かった。

学事日程への配慮【広報活動】 (複数回答)



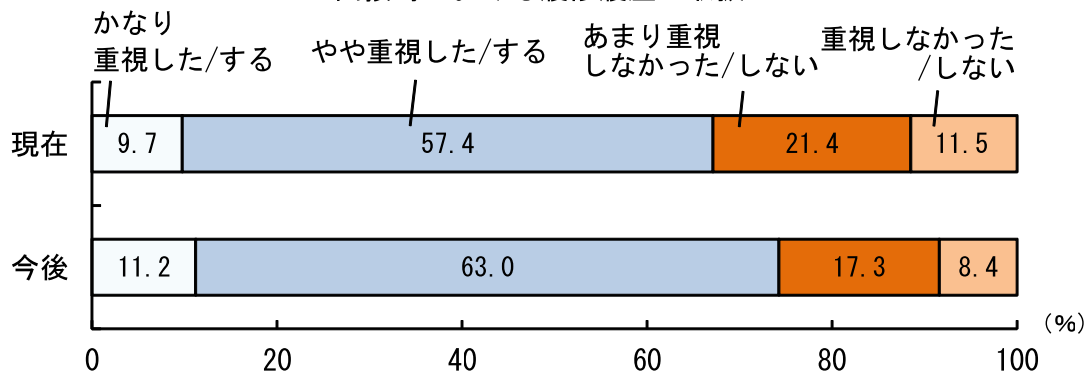
学事日程への配慮【選考活動】 (複数回答)



(2) 面接時における履修履歴の取扱い

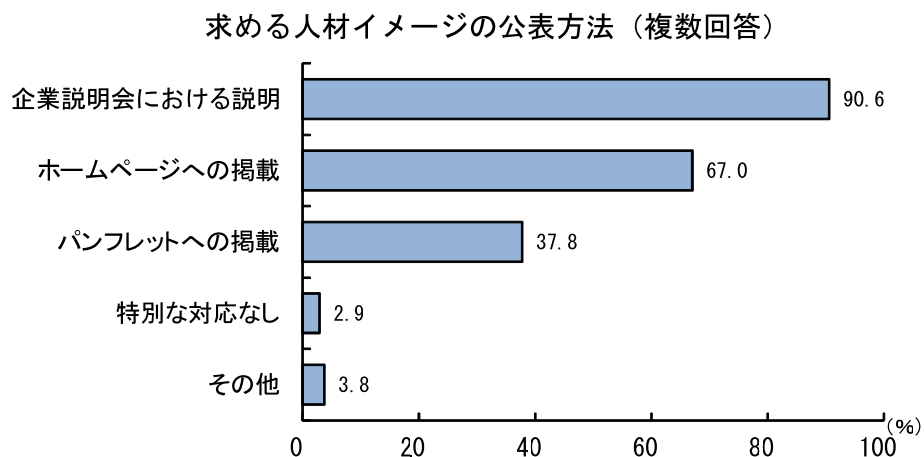
面接時に履修履歴(成績証明書等)について、「かなり重視した」「やや重視した」との回答合計が67.1%、今後、「かなり重視する」「やや重視する」との回答合計が74.2%と、重視する傾向が強まっている。

面接時における履修履歴の取扱い



(3) 求める人材イメージの公表方法

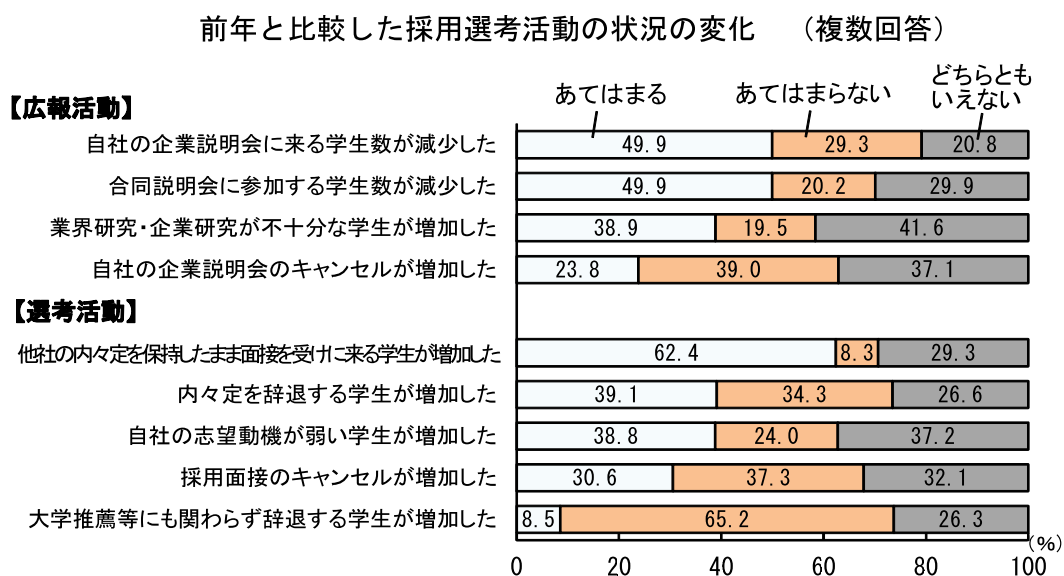
自社が求める人材イメージの公表方法としては、「企業説明会における説明」(90.6%)が最も多かった。



(4) 前年と比べた広報活動、選考活動の状況の変化

広報活動において、「自社の企業説明会に来る学生数が減少した」、「合同企業説明会に参加する学生数が減少した」との回答が、前年に比べてそれぞれ10ポイント程度増加し、約5割に達した。

選考活動では、約6割の企業が「他社の内々定を保持したまま面接を受けに来る学生が増加した」と回答した。また、「内々定を辞退する学生が増加した」との回答も、前年と同様、約4割に達した。

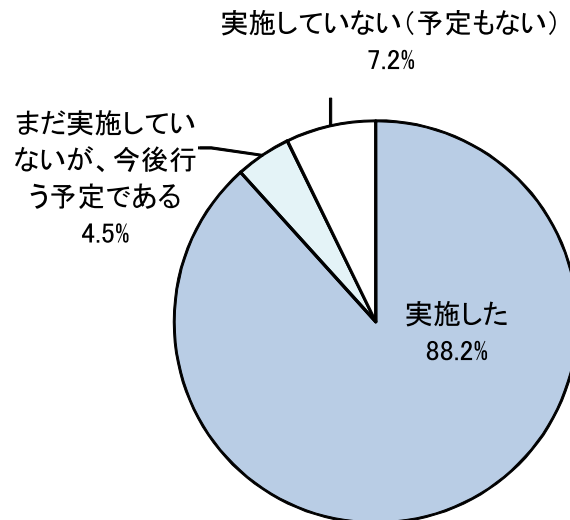


3. インターンシップについて

(1) 広報活動開始日前のインターンシップの実施状況

8割以上の企業が、「実施した」と回答した。

広報活動開始日前のインターンシップの実施状況

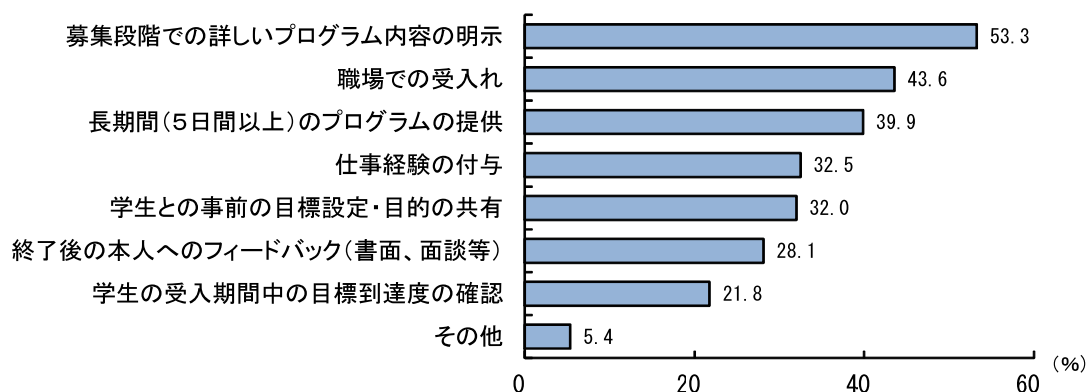


(2) インターンシップの教育的効果を高める取組み

教育的効果を高めるために実施している取組みとして、「終了後の本人へのフィードバック」(28.1%)との回答は、前年より2.4ポイント増えた。

「募集段階での詳しいプログラム内容の明示」(53.3%)、「学生との事前の目標設定・目的の共有」(32.0%)との回答も、前年と比べ約2ポイント増加した。

インターンシップの教育的効果を高める取組み (複数回答)



以上

(参考) 選考にあたって特に重視した点 (5つ選択)

